

No.1886

10月13日例会 プログラム 「百人一首と平安中期女流文学」 小野田 元男君

10月20日例会 プログラム 「米山月間に因んで」 米山記念奨学会委員長 福森 国雄

10月13日のメニュー ・鮭のムニエル バターライス添え ・コーンクリームスープ ・フルーツ ・コーヒー

前回(10月6日)例会記録

出席報告	会員総数	40名(内出席規定適用免除者2名)	出席者数	27名	欠席者数	11名	出席率	71.05%	前回補正率	81.58%
	前回補正者	福森君 三宅(孝)君								
	欠席者	藤原君 花岡君 林君 東川君 井上君 松王君 仲田君 中山君 大久保君 大西君 山田(次)君								

会長挨拶

こんにちは。例会出席ありがとうございます。昨日は雨の中、新入会員歓迎会に多数の出席ありがとうございました。新入会員5名の歓迎会は私にとっては初めての歓迎会でした。今後も大勢の歓迎会を是非行いたいと思います。先週の土、日曜日に岡南ロータリークラブのメンバーと山口県萩市に行ってきました。主催は職業奉仕委員会で、岡南地区を干拓した藤田伝三郎の生誕の地を訪ねるのがテーマでした。広報委員会が新聞記者のインタビューに答え、親睦委員会が夜の懇親会と翌日のゴルフ、市内観光の手配でした。3委員会合同での委員会活動なので一気に委員会活動がはかどったような気がしました。玉野市で宇野港を開発した松垣知事も萩の生れと聞いています。玉野ロータリークラブもそのような行事を一度考えてみてはいかがでしょうか。以上、会長挨拶といたします。お食事をどうぞ。

会長報告

- ・ 例会後理事役員会を開催します、理事役員の方はお残り下さい。

幹事報告

- ・ 新宮ガバナー事務所より2007年国際大会(ソルトレークシティ)登録の案内が届いております。
- ・ 日本 UNCHR 協会国連難民高等弁務官事務所から難民支援に関するアンケートが届いております。
- ・ 10月28、29日地区大会参加者の交通手段について調整をしています。
- ・ 他クラブの週報・例会変更通知は回覧いたします。

委員会報告

- ・ 親睦・家族委員会(高橋(秀)委員長): 昨日の歓送迎会出席ありがとうございました。
<誕生日祝> 宮原君 4日、小野田君 17日、藤田君 21日、山本君 23日、山田(孝)君 26日
<結婚記念日祝> 東川君 2日、藤原君 10日、林君 10日、藤田君 14日、三宅(保)君 17日、松王君 19日、花岡君 26日
- ・ 新世代活動委員会(三谷委員長): 9月30日(土)GSE 参加メンバー結団式に榎田会長代理として出席しました。玉野RC推薦の難波 加恵さんが新宮ガバナーよりバッジを授与され、立派に決意を述べられていました。今回の派遣メンバーは5名、3月31日壮行会、4月中旬出発。派遣メンバーは出発までに推薦クラブの例会に3回は出席とのことで、次回の玉野クラブ例会に出席します。また地区大会にも参加されます。

スマイル・ボックス

- ・ 小野田君 - 小野田テニスコート出身の藤田さんが国体女子の部で準優勝しました。うれしい。ハイロー会で馬券が当たり、そのお金で母ちゃんと「釣りばか日誌」を見に行きました。誕生月。
- ・ 富永君 - 倉敷CCクラチャン予選参加 97点。新入会員(松王さん、仲田さん、羽賀さん)歓迎いたします。
- ・ 高橋(秀)君 - ミニハイロー会で馬券が当たりました。少ないですけど。
- ・ 難波君 - 本日卓話をさせていただきます。
- ・ 藤田君 - 結婚記念月。誕生月。
- ・ 三宅(保)君 - 結婚記念月。
- ・ 宮原君 - 誕生月。

- ・山田(孝)君 - 誕生月。
- ・石川君 - 歓迎会ありがとうございました。
- ・谷口君 - 昨日は歓迎会出席ありがとうございました。
- ・島田君 - 谷口副幹事さん、お電話ありがとうございました。 新入会員歓迎会欠席しました。
- ・松尾君 - 歓迎会欠席しました。

プログラム 「職業奉仕月間に因んで」 職業奉仕委員会 難波委員長

はじめに、先週の例会で優良従業員表彰の推薦をお願いしましたが、まだ出てきておりません。今までに表彰を受けていない16事業場は来週中に推薦をしていただけるようお願いいたします。

では本題に入ります。職業奉仕はロータリーの金看板と言われます。それは他の団体にはない奉仕分野であり、何時でも、誰でも出来るもので、いわばロータリアンの生活の規範をなすものだからです。クラブの役割はロータリーの綱領をクラブの活動に適用して規範を示し、更に会員が各自の職業能力をもって寄与できるプロジェクトを開発して奉仕を推進、奨励することにあるとされました。すなわち職業奉仕委員会は会員に職業奉仕をしてもらうための指導激励の機関なのです。

その目的を達成するために最も必要なことは「職業奉仕とはどんな行為か」を理論でなく具体的に知らせることです。ところがこれは個人の行為である上に、日本人の陰徳主義も手伝って、具体的に例証することが困難です。これが職業奉仕を「分からない」「難しい」ものにしています。

職業とは一応は生活の糧を得るための利潤の追求を目的としています。しかし職業は実は人間が社会生活を営むために必要な業務を分担することであり、その報酬として利潤が与えられ、当然のこととして責任と誇りが生れてきます。職業奉仕の理念は正にここにあるのです。国際ロータリー50周年の会長が提唱した「四つのテスト」はこの責任と誇りを堅持するためのチェックポイントを示したものです。ロータリアンは全員職業人ですから、職業奉仕こそはロータリアンの基本的な生活態度であるといえましょう。この意味において四つのテストは我等の瞬時もゆるがせに出来ぬ座右の銘です。したがってこの普及と活用の推進を図るのは職業奉仕委員会の重要な任務となります。

このように職業奉仕がロータリー活動の基本であるとするならば、この委員会は、修練の場である例会に大きな責任を持たなければならないでしょう。すなわち職業奉仕関係のプログラムを常時提供する用意がなくてはなりません。まず会員の職業関係のスピーチを企画し、事業上の成功法、苦勞話を聴く。また業界の専門家や成功者の講話を伺う。更には優良事業場の見学、できればそこを会場としての例会開催、時には国際ロータリーから出ている職業奉仕関係資料を活用して職業奉仕フォーラムを行う等が挙げられます。そしてこれを実施するためには年数回の職業奉仕に焦点を当てた週間を設定する必要があります。

職業奉仕の概念は「ロータリーの綱領」の第二項に示されています。すなわちそこには、職業の道徳的水準を高めること、有用な職業はすべてその価値を認めること、各ロータリアンの職業を社会奉仕の一つの機会として品位あらしめること、の三点が挙げられていて、職業奉仕とは「職業の道徳性と品位を高め、その価値を認めること」が主目的であると思われる。

職業奉仕は分かりにくいと言われます。これは、他の奉仕部門では、クラブ奉仕がクラブのため、社会奉仕が社会のため、国際奉仕が国際関係のため、というように目的論的な概念であるのに反し、職業奉仕だけが、綱領の日本語訳のように「職業を通じて」という方法論的な概念として捉える向きがあったためではないでしょうか。職業奉仕も「職業を道徳的ならしめるため」という、職業そのものに向けられた目的論として捉えると理解しやすいと思われれます。

しかし、「職業奉仕に関する声明」の中に、「自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てること」と明記されていて、従来の「業務を通じて」という概念も正しいと思われれますが、職業奉仕が「職業を社会奉仕の機会と考える」ものであれば、職業奉仕を内容的に区別しようという従来の分類学的な試みは、少々無理があると思われれます。

職業奉仕委員会の仕事は体的でロータリアンの修練が主ですが、もちろん、外部へ向けての活動もあります。ロータリアンの大部分は業界のリーダーですから、自分の事業所の従業員、同業者、進んでは地域の一般業者に向かっても職業奉仕の理念を普及する責任があります。

職業奉仕委員会は「表彰委員会」といわれるほどに、どのクラブも各種の表彰を行っています。しかし、これも慎重に行わないと、その効果は上がりません。従業員表彰は職業を大切にした人々を褒めるのですから、結構なことです。

毎年10月を「職業奉仕月間」と制定しています。